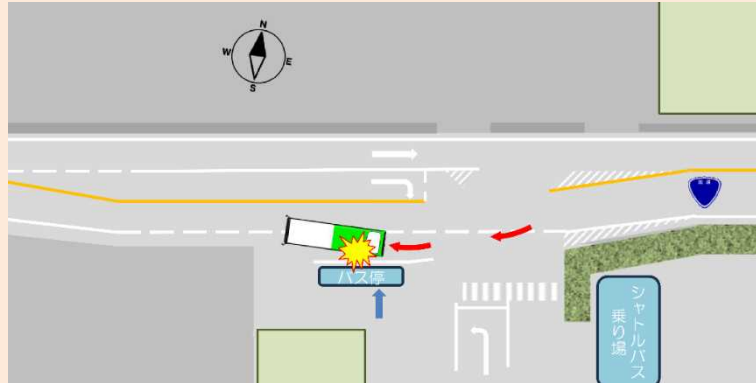


【事故概要】

- 年月：令和 5 年 4 月
- 概要：路線バスが停留場にて乗客 1 名を乗車させたのち、他の乗客 1 名が乗車しようとしたところ、運転者はこれに気づかず乗車扉を閉じたため、その乗客の足を乗車扉で挟んだまま発車させ、転倒した乗客の足を轢過した。
この事故により乗車しようとした乗客 1 名が重傷を負った。



【原因】

- 運転者
 - ・ 乗客が 1 名のみとの思い込みと、乗車確認と扉閉動作から発車までが流れ動作となっていた。
- 車両構造
 - ・ 完全に乗り込まなければ扉挟み込み防止センサーが作動しない構造であった。
- 道路環境
 - ・ 合流する国道の交通が植え込みによって見通しが悪いほか、近隣施設からの車両出入りなど確認箇所が多い。



思い込みをせず
確実な確認動作の励行



駆け込み乗車を想定した
乗務員指導と車両構造



運転者の確認動作が減るよう
各所へ協力依頼

【再発防止策】

- 適切な指導監督
 - ・ 運転者に対して、指差し確認や車内放送による声かけ等を使用し、乗車確認から発車まで流れ動作とならないよう指導徹底。
- 車両構造への対策
 - ・ ステップに足を乗せたことを感知するよう、乗降口上部にセンサーを追加。
- 道路環境への対策
 - ・ 施設管理者に植え込みの伐採等を依頼する。